

パブローブの終わり方について（まとめ）

2016年10月3日

西尾美也

服の終わり方（決定事項）

- ・ パブローブは、あいちトリエンナーレ2016の会期終了をもって活動を終了する。
- ・ 寄贈されたすべての服は、会期終盤から再寄贈服として来場者に提供する。
- ・ 来場者が服を持ち帰る際には、再寄贈シートにその服が気に入った理由などを書いてもらい、譲渡されるプロセスも含めてアーカイブする。
- ・ それでも残ってしまう服については、エピソードをすべて読み上げるセレモニーを、最終日に執り行う。そして、それらは作家の作品として再利用することなどを心がける。

これまでの経緯

パブローブでは、終わり方（会期後の服の扱い）について、プロジェクトメンバー（以下、PM）との定例会で話し合いを重ねてきた。大きな方向性としては、まず以下の二つの考え方があった。

- ①会期後も、会場を変えて活動を継続させる。
- ②会期終了とともに活動を終了する。

①については、会場の確保および一時的な服の保管場所にかかる出費は現実的ではなく、たとえば現在約40名いるPMが分担して保管しても一人あたり25着となり、これを義務化することには反対がほとんどだった。

以上の理由から、基本的には②の方向で検討を進めた。寄贈された服の行方をどうするかが議題の中心となり、以下のような可能性が挙げられた。

- ②-1) 資源回収に出す
- ②-2) 途上国に寄付する
- ②-3) お寺や神社で供養してもらう（祈祷して焼却してもらう）
- ②-4) 別の作品に作り替える
- ②-5) 着たい人に譲渡する

服の寄贈者でもあるPMの意見が多かったのは、誰かに着られて再活用されることが一番嬉しいという5の案だった。服にとってもそれが一番いいのではないかと。また、このアイデアは、図書館で使命を終えた本を市民に無償で提供するリサイクル本の方法からヒントを得たものでもある。

1の案は安直すぎるためにほぼ選択肢にはなく、2は輸送費の問題がまずあり、あるNPOなどの団体に寄付する場合も、パブローブの服が「単なる古着」として扱われてしまうことへの躊躇から、案としては外れた。3と4は資本主義と異なるコンセプトで終わらせることがパブローブと相性が良いという意見もあったが、やはり5の意見が勝った。また、3は費用

がかかることも課題とされた。5を実施してもなお残ってしまう服については、4や1の扱いをするというように優先順位をつけることで意見が一致した。

5について詳しく検討を進める中で、下記のような疑問の声が挙がった。

- ②-5-a) 寄贈した人がそれをよく思うのか。
- ②-5-b) 展示から服がなくなっていくのはよいのか。
- ②-5-c) 業者が大量に持ち帰ったらどうするのか。
- ②-5-d) 寄贈する際と譲渡する際の温度差（手続きとしてのハードルの違い）がありすぎないか。

aについて、「販売」であれば問題だが、着たい人に着てもらう「譲渡」であれば問題ないのではないか、あくまでも寄贈された時点で服の扱いについてはパブローブに任されていると考えてよいのではないか、寄贈された服はパブローブの中で展示や試着、貸出を通して、寄贈者のものからパブローブのものになっているのではないか、実際に寄贈者の思いを考慮して話し合いを進めていることに意味がある、ということで意見がまとまった。譲渡を開始する際にも、寄贈者を特別扱いはせず、もし寄贈者が自分で持ち帰りたい服がある場合は、一般の来場者と同様に、譲渡開始日に会場に来てもらうこととした。

bについて、作家の西尾+403としては問題がないこと、逆に終わり方も含めてプロセスとして提示すること自体もプロジェクトだという認識を共有した。

cとdについては、持ち帰る際の手続きについて検討することで解決を図った。具体的には、寄贈の際にエピソードを書いてもらったように、持ち帰る際に、なぜその服を気に入ったのかを書いてもらうというもの。単に「柄がかわいい」や「かたちが素敵」「サイズが丁度良い」などの理由では持ち帰れないように、理由を記入するシートには下記のような項目を設ける。

- ・どんな服か説明してください（色や柄、形、素材など）。
- ・どこが、どのように良いと思いましたか？
- ・どのように今後着たい（使いたい）と考えていますか？
- ・この服の寄贈者のタグを読んで受け取った思いはどのようなものですか？
- ・寄贈者へのメッセージを書いてください。

これをタグと一緒にハンガーに残すことで、プロジェクトのアーカイブにもなり、服が譲渡されて減っていく様子が異なる形で視覚化されることになる。

また、それでも残ってしまう服については、パブローブ式の供養として、エピソードをすべて読み上げるセレモニーを、最終日に作家とPMによって執り行う。その後の行方については、100着程度であれば作家が保管／他作品への再活用が可能である。また、あまりにも多い場合は、セレモニー後に、一定の量を資源回収に出すことも考える。再寄贈服の譲渡のハードルは高く設定しつつも、その行為自体は促すようにPMで運営を工夫する。

スケジュールの目標

～10/14（土） 譲渡についての告知チラシ／追加の利用案内パネルの準備、

譲渡用の記入シートの準備、告知
10/15（土） 10:00～ 譲渡を開始

譲渡できるのはパブローブの開館日とする。以下を予定。

10/15（土）

10/16（日）

10/21（金）（18時～臨時）

10/22（土）

10/23（日）

※パブローブ式セレモニーは、10/23（日）に実施